

■ 寄稿

保健医療学雑誌創刊に寄せて

Don' take it immutable, when you
found a Saint's word in a book.

小野 啓郎¹⁾

Keiro Ono¹⁾

1) 大阪保健医療大学：大阪市北区天満 1 丁目 17 番 27 号（〒530-0043）TEL 06-6352-0093

1) Osaka Health Science University: 1-9-27 Temma, Kita-ku, Osaka, 530-0043, Japan. TEL +81-6-6352-0093

保健医療学雑誌 1 (1): 1-3, 2010. 受付日 2010 年 2 月 11 日 受理日 2010 年 2 月 12 日

JAHS 1 (1): 1-3, 2010. Submitted Feb. 11, 2010. Accepted Feb. 12, 2010.

ABSTRACT: The maxim written by Professor H Nagaoka, a famous physicist and the founder president of the Osaka University, would be suitable in order to commemorate the first issue of our journal, because the journal directs to be an international forum for competing for excellence of original and creative research in the rehabilitation medicine.

勿嘗糟粕 甲戌夏日 楽水
（“糟粕を嘗めるなかれ”，1934 年夏）

この扁額は大阪大学初代総長の長岡半太郎（物理学者）先生が教職員・学生を励ますために遺した書（箴言）です。理学部と医学部しかなかった創立間もない小さな国立大学の図書室に掲げられました。以来、間もなく 80 年を迎える大学図書館（生命科学図書館）の一隅から勉学中のわれわれを鋭く見つめていました。弟子を戒める師匠の出番がなくなったこの国では、少しく解説を必要とするかと思えます。糟粕というのは酒かすです。書物は、聖人の言であっても、滋味を取り去ったもの・もぬけの殻として読むべし。万古不易の真理と思うなというわけです。国語辞典ではその由来を莊子まで遡り、明治大正期まではかなり馴染みのある格言であったと、その次第を紹介



小野啓郎大阪保健医療大学学長近影

しています。

創刊される保健医療学雑誌では、編集陣も、寄稿者も是非この志を高く掲げていただきたいものです。

リハビリテーション医学・医療が変革期にあるという認識は医師にも、専門技術者にも共通していると思います。ただし現行法制度から、後者にはその変革を担うという意識や主張が希薄ではないかと案じます。国民皆保険医療制度のなかで、医師の指示のままにリハビリテーションを請け負っているという日常感覚がそうさせるのでしょうか。しかし、考えてください。病気やその結果としての障害が 20 世紀の実態とはかけ離れています。リハビリテーションの診療規制や診療費などの区々たる問題にかかりきっている間に、世間の要請と専門技術者が提供するリハビリテーション技術・技法の乖離は止め処もなく広がってしまったと思いませんか？たとえば片麻痺を含めて脳血管障害の後遺症は増える一方ですが有効なリハビリテーション技法は打ち出されたのでしょうか？Brunnstrom の時代とどう違うのでしょうか？日常生活動作訓練や手芸教室まがいの作業療法が本当に機能回復を促しているのでしょうか？

これはほんの一例です。神経科学の進歩、CT/MRI/fMRI/PET などさまざまな診断画像の進歩を世間は高く評価しています。そ

れは脳の可塑性や代償機能の発現を目に見えるものにしてくれたからです。ではそれにみあう運動療法は編み出されたのでしょうか？生活習慣病対策に理学療法士・作業療法士の専門技量は必要ないのでしょうか？精神障害をはじめさまざまな神経難病に薬物療法の重要性は前世紀の比ではありません。運動療法との併用が高い成果を挙げているという報道も、日本のリハ専門技術者には絵に描いた餅です。基盤となる薬物療法の教育も研究も貧弱であり続けたからです。

リハビリテーション医療の普及と標準化の歴史の中で専門技術者の果した貢献は、この国ではことのほか大きいものがあります。正規の教育を受けたリハビリテーション専門医がはなはだ少ないままに 20 世紀を過ごしたからです。

結論を言いましょう。リハビリテーションの変革を推進するために医師も専門技術者も、この保健医療学雑誌を研究フォーラムとし、大いに議論を戦わせ、情報を交換してほしいのです。むろん世界のリハビリテーション医学研究者ともホットな交流の場にしていただきたい。

糟粕にあらざる研究を大いに歓迎します。

2010 年 2 月 11 日、建国記念日に。

大阪保健医療大学学長 小野 啓郎